三四

ロ 9
3800
2

門口9
3800
巻 2

大和俗訓巻之三

心術上

心をまもりつゝしめるこゝろ第一事の本根なり心をよんでこゝろざれば事おこりまつ ゆゑに家をとゝのへ人をおさめんとおもふ人は学ばざるべからず学ばざれば家の至不幸なれば枝葉さへ人ぢ家の至不幸なれば家おさまらざるがゆゑに人をおしへくさろう道はまつ善をこのこと悪を憎む事を主とすべし心の内よ善をこのみむ後ろく悪をきらふ事まあやうきゆゑんなれば悪人の境界をまねりまぎらさゆゑんを思へくさやうなるこゝろ

昭和五年
小田村吉氏
長男友吉
寄贈
籠嶌子孫藏史

後よりこれあり眼は色をこのみ耳は声をきらふ事誠
あらぐんを面くらう事やまとうべくんを面くとと
心ちかむるを不乃喜怒哀楽愛悪欲の七情ようさだ
にも不及なくくうかくれちざるを云ちぶべくして
ようなくびこを花さとごすべうるどいうるべくていうり
こを知らとべうるごと自餘も亦かくのごとくなるを
七情を不及なくてうこあちざれど心乃用とぐこうり
なくくして常は和平なり是心の一さ也

尚書曰人心惟危道心惟微惟精惟一允執厥中

是いにくへ乃大聖虞舜乃帝の天下を禹に授せ
聖人はゆづる世時は天下紙治め給ふ心法を授へ給ふ

はたらきなり人心とは人の身乃耳目口鼻の形氣乃ねむ
所よりおこるを云形氣はねむ所とは目ふ炎をと
のこと耳に音をねこと口は味をねこと形よは安らうを事
をねむを云ようこびいうりうをとるれくこをれ
にくこと孫ごふの七情も皆形氣はまりおこる人心なり
うこて食をこのこをくくて衣をとめはこれて形を
やこむる乃鼻ふ七情も皆是人情のなくてけかざる
ようれど聖人とりべどこを人心なこと是あこうどを我を
どこを聖人の耳目口鼻乃形ねむはりせ七情乃おこるふ
まこせわれどれどこを事ことをれこちまちに私欲ふ
なごを聖ふあらいこ衣ふ人心いこれ老くとのこまふ

あやうしといふもの人ぞ小異を決のもつとめ要てうぐめく
破人ふ人乃ぐけりよおもち入らんとろうぐめ〜道心
とい仁義禮智のかぜ性ようおてろ若んも道心惟微とい
微いとこ〜きにてくかろ〜也人心い形ましうもろ
ぬあよあうれうぐきてを勝さうんよなりやとし
道心を心底よかろれかとろにてあうあきぐて故よ
道心い惟微とのくまうよ人んいさうんよなりやとく道
んをうくれやとし〜二乃者胸中よ相まぐ至てをれ
さめやうとあうざれぐ人心いいよくあやうく〜て
人欲よあぐれ道んを弥かとうあ〜てをるよ人心う
おかをれくなろぶあくよおて人心をおさ人道んを

たをうをなうんぐあるべうぐ惟精とい人心道心二
のうをとうちてゆ〜うふくい〜をある也惟一とい
きてに人心道心をとうちあきたる一よ道心をを
と〜く人んのあやうき方よまうせざる徒云かくの
ぬくれぐ一心乃あうぐ道心ぐうおて人心い道
心乃乃知よあるさうふ危殆厥中一中とい人んのたをを
耳目に體七情のうぐ生るとふ及のあやまりををを
云是乃狂乃玄極すく目あてにとろ乃あるり惟精惟
一をれて第の身ぜうぐ皆ふ及乃ぬやまりなく〜
てをさぐ中にうあなり飲食ぐうぐを以ていぐ
酒食とこのむい人心なり酒食ををとべうぐとをい

道心なり酒食をこのむんよまうせぬをだるぬちょうち
成僧を失するひ脾胃をそそこるふよりくくんとこと
んを老なり酒食をるせだ身乃害になくくん事を
おそるくるんをありといへども人心さうんをれどお
そるくんるおのづくくおとうふしてあくくうきがくく
是道心惟微なるなりかくのぬくよ酒食をはむんよ
まり多れそるくんおとうきれだたちまち酒食をり
ぬまくくにすぐくおそるくんを失くるりてはちおよ人
欲よりるどを失ふよ人心乃こぐ固くなると道んのつく
ふことあることの二を明くうふありてまよいざるを惟
精なりとでよ酒食乃ぬくく接あり節めして益なり

事をくくくくきまるべ当よはくくくてる心をを
とくくく人心乃むさがりこのむ欲をいまくくめおくくて
れのつくくるを不及乃あやまりまるくしむべくをべく
強るふ人心惟危道心惟微ハ人ん道心この者乃を
さ酒なり惟精惟一を心をあくうめをんををとくる
工夫なり元執厳中ハ中をるふ及なをを拙乃乃程
なり必惟精惟一の工夫ありて遺不及の所をを道
理を失ないざるべくとれをなり是大聖人乃天下を
ゆぐなり治人治乃大乃ん法れを乃理を
拙せるなるべくは十六字を第世ん学乃変れ相承也
まるくなりいい下庶人よくくくくきまで生くんとんでよく

人の為に受用あるべきものなり
天地の人をあつまりこめぐることを為ふるものなり。食物衣服
居所家財なりろくの人乃身を生じて行ふ
為ふるべく外人乃をとりて用ひるべきものなり天下
乃人ぐるまもひとりとして一人
なりとも無のものなくこれなるべかるべく言
為るも速ぐるべし又業物をなして病を療ふ凡て世よあるべ
ゆるべき為ふの物人乃身を養ひ助ふるべく多き事
あるべてうどうぶるべきもの乃をあつくめぐる
為ふべきなり天地の儲蓄を生ずる事ひとりの人と養ひ
百分が一なりとてもとりとる食と

なり若不孝なれば男となる物をえ人の第物なり世を
くして天地乃あつさめぐることをうくる事なりとるべ
かくのごとく天地の恵をうけつくりうるりてもあるべく人い
たるまで平生一乃身をもなさんべくして天地よりえ
つと恵を新たにうるなれ行ふべいんやふ仁すべて天地乃
うこやるひ為ふ人物をとりこるひなやまして天地の
生物を始めて天地の物為ひいやして天地の仕心よそむく
をや是天地乃恵をたるべ天地よ不孝にして人道を
失なへりとなるべ日月少なるべにして天地
の大恩第一を新たるべ乃ちこそなくともせめて
天地乃恩よそむくべ天地の生ず為ふ物をそこなふべ

古人の天理の眼あるよりあらゆる事をきわめて知りあきらかにしてうむりぐ今此世の人も亦かくのごとくあるべし 待二四
天乃威とおぢてあくまでもこれをたもつといへども学者はたゞ
よろこびをなすべきをなして心とこゝろ人道にかなうべきをかく
乃ぶくなるべし
ほとゝぎすの内をうかゝうて一点乃私欲邪念あらばはやく
去るべし私欲とハ名利貪欲の欲とて名聞を好み利分を
ねがひ貪をねがひ貨をねむ乃類并に耳目口鼻の好む所此
身に私とする慾をいふ邪念とハ人をあざむき人をそしり人をいかり
あらそひ我身よかれと人をうらみ人をそねみ人をうらやみ人をあざむき
人をあなどりあざけりとかくの類

邪悪乃心なりあるいハ此等の事法にあたらずもあらんかとおもふ
ふかきをたゞし心を宮とする事也又氣質乃
偏あらんに傷ずして素質乃偏とハ生れ付ふかく打ちたる
所なるをいふ氣のかたよりきたるとさハゞりとやうすき
てようさと成たるやうなるたぐひにぶくゆるやかなるたぐ
たぐひ或生れ付くいろりあわく慾おもとさハゞりなるたぐひを
いふ是皆氣質乃偏なりこれ氣質のあしき
正を変化する事をさとりあらためて平生心を用ひて是
を傷ずんであるべうんどうあやまちなくばとゝやうふ
改むべし過とハたくさんてあるをもとよりあらぬ是非を
たゝうどしてふさぎよろこばんとするむくをいふ氣質乃偏よ

こゝろ私慾乃塲(サカヒ)よりうくるなり事をなすに人をたゞ人をなからんと雖もなをなを過とあらんことを恐れて善ふうはるべし〜やぶさうなるべうこと容(ヨウカ)なりといへども我れ行ふこゝろ改めうぬるとこゝろ私慾邪念と氣質乃偏とをやしなひ三乃本ありていい心術を害とんをのく〜道をりうんとなれとも是乃邪念あり〜て去されば速よとくむべきやうなりたとへば田畑作るに草(ハクサ)と苗(サナヘ)とそくれこゝやうてし蓑(ミノ)のことあるまりてまづ草をさりてくみと把(コヤ)と用るがごとく〜己乃の病とをてはなれ蓑をとるがめ〜

人は海(アイ)づるに義乃こと心法とをと是(カ)乃まうり

これもあるべうこゝろぶ悪もとい人をあやまちむをこゝろくまざるを敬といい人をとやまをとをあるべうこゝろ人をあいれむいに仁也人を愛まいい義なり仁義とんの内ふさもちて人をなれを人をとやまをとるべうこゝろ是人を對て行ふこゝろさ言ふり字母をあいまことまんをうやまをいをなをたうとさ人いやゝ知人を對ととも

こゝ信(ノ)ふ言ふこゝろひてこゝさかどよ悪義をべ〜あるべうかろそうにとべうこゝろ是人よまづ〜ひろるを

おゝて人乃心必に義禮智乃性あるゆへよ是んに対よかこゝそこゝ是人をむる〜くせゝて〜て擴充(ヒロメミツ)る〜ひろめこうとい是心乃こゝろふおこる我そこゝをみるこゝてそゝてや

なひさうんをうしめ其量を十分よみてくいぞくふも
所をうしむるとうしをうめてうくへぬ水乃そこめて流き出るを
せさとうめどーてあぐーて火のそこめうくのうえおうをおうさ
ぐーてさうんよおこうしむうめくをべーしは良んをおう
ひろうめぐきをさ宮ほをおさうめて解むりおうーひろうめざれぬ
ちうさ父母よにうみうふぐにあうーぐ是孟子の説孫よ
親切なう義なり学者必服膺をてつとう行をつべー
仁を人をあをれをあをそぐにうを若んなり是天地のめぐ
人乃んをうまて人乃心とうをうあるよ孟子よ仁人
の心なりとへうふまれ付うをんうを若よいは
なんをを失つどおのまををもうんをいう人ををーー人ヘ我の

為ぐてなーー小人をひうくよ我為ををしーて人をを
せぐ人我乃為ぐてあーー是私欲あまぐ也是を不仁
とを人ーうをのい仁をいうくんとうを人ーー不仁乃人をを
心を失ひ人乃ををにうぐりーーをうをうむくはあよ人の
ないまーむぐをます不仁ーうを生ををーふ仁をを天地
人のふくむ所をり有よにあふ天罰をうをうをうをうひ
ありをを上を孫までもむををりの世ををおをうをべーは
道理古今ぐかーぐやまーーうをあーを事ををーぐうを
ぐあぐをうーは
易よ天地乃大德を生をとをを仁ををうくあぐうひををうをべーを
といいををを死をぐいうーーをあうをぐを生をーーくやまうぐ

しかるに天地を第一とうやまひて天地の第一乃父母なり
物をあたへていきを事をこのみあるをもとゝすとゝいふよ
り是天地乃大德なり生乃理也人ハ天地乃子なれどこゝ心よ
て天地の大德生の理をあらはすゆゑに天地のめぐみをまれ
付ゝり是を仁と云仁を人道をあらはすゆゑ是を心の主とす
是即天地の第一乃人倫なり第一ハ皆天地乃うめゝ所なり
ゆゑに第一人倫を尤て天地のめぐみあつ一方乃間にて
いと尊くして天地のまことをもとゝ所なるゆゑ天地乃ほんよ
ゝ尊びひ仁をもつて物をを愛するゆゑに人倫にあてゝとゝ
ゝ乃つくゝべく人倫をあらはすゆゑ是天地のほんよ修なり
人倫を重ずるゆゑ次第乃ゝ先父母兄弟をおもゝゝ仁

を行ふ中なりゝ是ハ第二乃人倫なり次ハ親族朋友
次ハ第三民を愛ずべく又其次ハ鳥獣草木を愛
してゝゝぶりに報ずべし次ハ第四なりゝ
ど是人とあつれを物をあはれもゝゝ次第なりされど又愛
あるゝとも是義ゆゑて仁ゝ乃人倫ハ物をを次ゝゝ
者獣も乃理をゆゝこゝ法をとい義なりゝ獣草木ゝ
てゝぶりにあるゝゝゝ不仁なり仁ハ方道と一体なゝ
故人倫をいよ乃ゝどゝ道として愛せざる事なり孔
子も一樹をゝゝ一獣をあるゝをにゝ時をゆくせざるハ
者ハあるゝどゝのゝまゝ人ゝをされて禽獣も草木を皆天
地乃生ゝゝりゆゑれゝみゝゝゝ是をゝゝなゝハゝ天地ハ

尉〜不孝なりと志るべし人倫を忘るるに至るべし況
うとく紀なるべし（孝子なる新論の）
若別なく平等なる心をもとうハ義なるべうもとうハ義なるべうもとうハ義なるべうもとう義なるべうもと
て天下の人を一様に愛する心を父母をも路人と同く
とる也是仁乃道と志るべうもとうもとうもとうもとうもとう
人倫を他の子也天地を法とすべし天地ハ別な
んなく第絶をあらんむとをいとくこと心とせりおよそ志ざとせ
百物をうんおしやうまを汲てうざとせり人も亦こ
んをうまをて書ふ人をめぐるあらんむとをいとくんとをとす
別乃会あるべうもとう人をたをけすることを汲うざとすべし
おのうざ乃うざうざうざ涙有よ天下此人を慈しみ下慈人な

いうることを見て行ふ人をうまを言ふあり言を別きまへべき信な
ありけるあるべうもとうもとうもとうもとうもとうもとうへ
をうるを藏をたとむ第なり
仁者を人を愛と人我乃ゑをとうるを人我のゑをとうるを人我のゑをとうるを
と人ハ我を愛とうハ人我のゑをとうるを人我のゑをとうるを私也仁者を私
なり〜我を愛ふるんを愛ふるんを愛ふるんを

事ハ人をもてなすうゑ婚礼ハ人をもてなすうゑに
それどころにもてなしとせぬ事なり
我がぬしなる人ハほどにあるべきなり人に
ほどこさるべくの物くれぬ人のんなるハざる事なり
て人々者をもてなすやうんどもに伝乃ものくちに
推己及人と云ハ人なり惡ハ伝ふべきなり
ぬるべき工まなり伝ふべきものハ人をもて
惡をつとめて伝をもの事ハ是伝世乃ものハ一字ハ
人の身ハ行をつとめ行べきなり世乃人ハ
人となるものハ天地の心ハ陽ひ伝世をいく心ハ行べし
己をもとる世をいく人をもて世を見伝世人の心世倉獄ハ

ものの身をもとる事ハ人をもてなすべし
不仁ハ人をもてなすべし
あるハ倉獄と伝ぬべしんやふ伝ぬれば人心を失ハ
を銘乃中絶のうゑ事ハ人ハ
身をとるべくぶるも人をたうぶ
我身をかへりずして人ハ
を学て学ぶあやまちを改ものを
事をハまり事ハ古人
業のうゑ勢世勢ハ
自活をもとる我をかへ
ごとくなれば人ハ

ものを学ぶべし
ぶざる伝道と云道なれば
りて所事をとるのと人のいさめ
れ智をひきをかうつる
人道をいく天下の英雄とす
ることをむほることハ
をもとして人ハ求めどかく乃
ぬるべ為ようにもる事を学ぶべし古人

勢をいて天下の惡事と禍と勢とを
防ぐまもりといへども
敬をたゝくしむと別どつくちむとをいんよりめちそろくを云
和語乃こゝろはたゝむ也〳〵やとめ字也間はたゝんでみぐり
よりに出さぐ家内より敬めだ内をたもちて出るみつど
別をひなして事理ふるひてあやまりをすくとをいく
敬を一心乃まもり第一乃招なり故よ敬めが多偽と
敬まぎれで孔子百の事敬〳〵まざろ夏をもれ第一皆皆
はたくちつこにしてく行つまき第一悪皆不敬ゝ
聖人は徳見にしてを五偏乃ろ見にしてくもまろ
ちくをいくく聖学は敬をいくく要とを在よ聖学の始終り

皆敬をいくく家ともと古来聖賢乃心法皆敬の一字をあ
とを学ぶ乃たはとくむべを不ちりよくはたくちあだ猫
ゆりはたゝ〳〵はぐれで猫あり白楽天も猫与猫在懐与二
不慎といへをあれりぐうひを皆はたくちあるふしなを
あよはたゝ〳〵見ハ猫よりいとをいへを
古語よ人聖人のあるで誰ら過なくをんをぶつてくをなむ
善あれより大なるいなをといへを程子ま学問のを云他
を不善とをれで速よ改めて善ふちぐふれをといへを
ふを善とハ即聖をちりを改むふハ学問乃要をり
されどをこぐをちを人をくをすべて凡人ハ気ぐ多ふ
私をてをりれをとをくををふをどよ行づ和めるハ夏ぐよ

まことに涙とゝをさゞのうきひとりうどゝ我ゞ身に悪とゝをを
知ざるいはるゝもゝどゝ心思なるうるを行ゝもうまゝ人ゝ
事をゝゝどゝや身をゝうゝ人の孫とゝて我ゞゝと知べゝ
行ゝのゝをゝとゝのむ事をゝゝ也べしこゝをゝてやまざれゝゝの
志をうゝゝれ財をゝいやゝひまをゝいやをゝ也をすゝれゝ
をゝこのむ事ハ鵜乃基なりこゝ大なる欲あゝていへゝ
酒食ゝ多欲と賊利とをゝみてやまざれゝ徳と換ひて
ゝゝとゝ身をゝし事ゝと銘のまをゝのむもゝ永ゝうゝ元こ
のむ良ハ多をゝいむをゝくゝ生れゝもゝゝてゝくゝ好あゝ
又ゝゝうゝいとなゝゝ古人乃言ゝゝこゝ也むまをゝをゝてゝ人の
善悪と知ゝかゝといゝゝゝねむ事ゝゝゝゝゝゝゝ

方孝孺ゝ樂速既而憂繼之者人之欲也といへゝ事
あゝゝゝゝゝゝゝ

をべて民乃人をいとく心こゝろして民のねむりをこゝろをて
ほどこし民のさらなるをとゝのへてかゝることなく父母乃
子をとゝのへいくとゝろ有是と民の父母と云民のよろこぶ人乃
民とやしなふ職分を天下ちゝまつる紙ちりて天
ちゝまつりひ民をとゝのへむべゝ我一人乃楽をき
わんとゝくおろかなる人をとゝのへむべゝ道のれんよろむまり
天乃おそるべきをべて人をそるゝ和もひとさとも同じ人なれど
民の楽をこゝろみも我と同じ楽をいとく民乃人を
おしとゝのへちゝまつる民のうまし若こゝをとゝのへとゝのへて爆
むべゝ不仁なる人を民をあわれまゝゝて民をあわれ
むべゝりて上をいとくゝとゝて民をこゝのまさまゝ是ふ仁の人

乃いつ河なりをべて民をとゝのへなる天性ありよろこ人
後をいとく民をもとゝれゝ民も亦必感悦ちてゝゝまう
ゝ後をいて上ふつゝふ上より不仁ゝいつゝりと行へゝ
民も亦必いたゝる感悦乃はかゝもやまとを古も今も
うゝゝゝ

かゝることなくして世をすごすうねてうれひくるしめる鰥寡孤
獨乃類をたゞ救ひもちゝくすくふべし鰥寡孤獨とハ
先て書るゝと解とを云老て妻なきを鰥と云寡とハ夫なきを
ちゝく父なき兒を孤と云老てなきを獨と云世の中此四ハ
世の中此困窮せる民まづ人のめぐみとうくべき者なり
なくうえあゝえをまづ人をいとをあはれむべしいのちへの
人の改をまづ人をみふびんなる民をとやく免ぐこと
うとぐく救ひとうをもして人をもせどあるべく乃人を
くるむべくゝどもりにもく人を物なく宮なゝんをを思ふ
ぞゝ人のうまひくゝことを救ひ人のゝあるをもりて患ある
物ゝ疎略にもべくゝどに位ひくく人を救に物あるくほど

てをを力あゝべ分窮をすくひ鰥寡孤獨のをとうをく陪
先ゝ人を分浪ふもゝぐひてあるまゝたくべゝ賊をたゝ
むぞうゝぞと決ハ禽獸蟲魚草木にゝるまでひろくあれ
世べゝ兄弟ハ天地乃間ゝ生ゝるを物ゝ兄弟乃別ハあゝ
どゝを同ゝくを地の間ゝ生ゝるを物ゝ一氣なれば
同類乃ゝとひとなゝてみぞりにうこなるべゝぞ他人を物
あゝ禽獸とゞ除くべし兄弟他人を物
いやゝさ匹夫のゝとゞゝ他人の補ひなゝん事ハ
ゝりかふ及ぶゝ而をりされどいやゝくゝて下ふなる
者も仁恵乃ゝぶふあゝゝむをゝゝ其力にゝゝぐひて
人を貴ひて人を救ふ支貴ゝて為ゝべゝ察まで仁恵を

いやしき人もいとけなくて法をまもり行なふべき事也是即て世の法
ゝのようをまなびて天地の法則を学ぶべし
陰陽とは万物の成り行ひて人の志ゝ
ひそかに仁義をたもち行なふをいふ古人の曰陰徳は耳乃
なりがゝ我ひとりまもるべしおそれ人の悪ひを
うまきひ人のよろこびをあらまほしくもとめむ
鰥寡孤独乃ごとくなるさ人を憐み人の飢うるをすくひ
あぐべきゝ人を哀れみあるべきをけ病者に薬を
くひ道路を除き人を害あるをみてさ人を利益おこ
なひ人の本を知らば人の為に陰徳
人の小過をゆるし人乃才芸と用ひをく名をみがきて人を

いやしきとうときを人のいうを争ひをやめかりにも人を
そしらざる人なきをうだてを人を妨まざる人の
善をもとめ人乃悪をいさめ禽獣虫魚をこゝろ
あわれむよりは切ざる時見陰徳なり凡陰
徳を人もしらざれども天道にうまあるを必ずゆ乃
さいはひとなり子孫乃繁栄を行う道理あり明らかゆへ
ちいいを求るに見てさとるべし陰徳なりてをの善ふ
さいをれ〳〵悪をよろこばいい〳〵陰を行ひ古今和漢明世世と
いへどを凡人を見をもとゝるべきにてなくこゝろまでと悪を
行ひ己が事をなしてさいをを求め我身の為つまで
き陽報よるべしいわゆる人と考ふるよりこゝろくい

世わるくなりさて古へと今の世とを比べ考へ合てこれを明
して善あるべきことをみがきに邪と人とをふるつくして善をさ成
さるべきことをもとめ考へ乃人を福をもとめんことを法
を行ふまことあるべき法を行ふことを求めずして福ハ
こゝろにあり
こゝろ法の事とうの心こゝろ成生態乃明と云ふ所の
こゝろのうちにとゝのへ心ゝ生乃一番まへハ生命のめぐりくして
やゝもすれバあやまちをこゝろ法ハ多くなりとゝもん
こゝろふくゝ必ず禍せ出さるべき法をこゝ
なりこんすと思ふべき常に心業をこゝろみてみるべきこと事と
好まざるべき事を多くなりたやまちをこゝ悔

我身乃強をたのいまくにもこゝろ大なる禍なり人の邪と
そこふこゝろ大なる悪をすと古へいはくはこゝ義理を乖く
ものこゝろ邪と正を道也者わんをけていまこゝ
元年生乃人ハ法をこゝ実ゆくゝ仏りなるべき中庸ハ滅天
之道也滅之者人之道也といへり滅ハ天之乃也とハ法
陽の志ゝ日月のめぐり美景秋冬乃次第いゆ今
かゝるべき美末代生べき景ゝ秋こゝ冬ゝ
て舞ことにうゝなるこゝも皆是天乃滅乃り滅之とハ
人のちゝうゝあくゝ法ゝあて滅ゝもこゝ人こゝ天乃子
なれば天乃滅を法こゝ志ひて行ふ人へし是滅
こゝ人こゝ道なり孔子も忠信とのこゝ人へとこゝ

誠をいたす人乃ちんせをとなへ〜と也忠信を印人乃深也
深といふべし〜て忠信とのゝまことをいたすこゝろいつゝなくとゝ
忠なり言と事とをいたすこゝろなくとゝ忠信乃自然を云忠信を人のいたす
にてゝくおのゝゝゝ

ゑ乃乃ゑゑあゝゞと故ゑゑゑとおゝゝゝむゝゝにハ只一ゝゝゝゝ後の
ゑゝと行ゑゑゑゝゝゝゝ凡夫乃ゝゝゝゝ

ひゞ事あり。くはゝ悔多〳〵。はたらきとゝ人
乃ゝつゝまゝ行ゝまゝまゝあゝきまゝあゝぐいゝゝぐとゝて陰氣
を平らゝゝゝんを和らゝゝゝ。ゝこゝ是非を詳ゝのゝぐべゝ
人陽ゝぐとゝゝを。いゝゝゝゝんを勧ゝ〳〵氣とあゝゝゝこゝぐゝ淡
心氣和平をゝぐゝれぐゝゝとゝゝゝゝゝの非ゝ面ゝゝゝゝを
ゝゝんゝゝまゝゝ邪なゝいゝゝんゝゝいゝゝゝくんゝ紙ゝうゝぐゝゝゝ其
ゝゝ変ゝ非ゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ慾とゝハゝ紙賞とゝむゝゝゝゝゝゝ
ゝあゝゝゝぐとゝ名利酒食好ゝ変盛潔燥宮酒宴供奉ゝとゝゝゝ
行ゝゝまゝて我ゝ私をゝゝゝハゝ慾なゝ慾をゝゝゝゝとゝハゝ慾
んゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

私乃人の甚〳〵き也愛をよおぼれくるこゝろ人の愛さとき
らぎ愛をぞれぞ人必おごりて乃ようそむく者人つて
其人のようひとなりよつぐ弱となるいるべき性如
孟ハ人乃不善をいまゝむるのるちゆるまぢ如ようを惡
つ或いるべき事をもいるるて人をるこゝろ我が心
をそこなふにくむまるこれをもて人の善あるを知ど
て用ひぢ小のあやまりとを大よをもゝてせめるるしばる
人うゝるそむく是皆情乃ろる也又あるをむべきと
ひいを固ざるハ不仁なり是たふ善ろ寡むべきを
くるゝまるべ樂むべきをとるあゝまざるいひるゝ情
ゝといつるゝ是皆ハ情乃ふ及ろり七情あれども

皆不及なくして從義よりとべまるべゝ是古人乃獨
乎情止乎從義とを人孟なりおよそ天下の道理を
過ふ及るを中よりるゝ至善ふるるれるる是
食ろう一事をやくいたべる不及なくるを注くる人
む身をやゝるふ是中なり是道のあるるるれで
脾胃をやぶるふ及るれで身の素ゝるを是皆中にあらぢ
人乃血氣やぶるれで病とを人乃心やぶるれで愚也
是古治なり心をぶるとハまるよ為ゝてんを用ひるを
ゝるる代云運動とる也孟子か心乃安い行思ふといつるゝ
ゝ思慮ぢれんやぶるゝて是邪とるつ事ゝるく
為ゝるまふ為ゝて中とを為ゝるしるくを思ゝるれで是

非をこゝろつ衣愚なるこゝろを人の善悪をこゝろさまへこゝろて愚
なるい思案せざれば也
欲を思ふ事法をこゝむるこゝろ
欲をこゝろゝゆるかゝ力強男ひとりんで学べる甲斐なきこゝ力
なこゝこゝろつゞこゝ平生の学力あゝにあゝ男〳〵
子業及奴僕ゝ対こゝてこゝろをたゞさゞ者をかゝとこゝろへこゝ
いゝりとんゝこゝろつゞこゝろゝゞ学問なれば子業奴僕のんゝとなて
恨こゝなくこゝろゝゞいやこゝこゝ是子業奴僕といまゝむこゝ乃業法也
智ハこゝこゝろとゝむ心の明こゝ也んゝこゝこゝろ不こゝてゝ
なけまゝバ方乃こゝ程ゝよこゝく悪ゝ是非善悪をこゝこゝ人
て陶こゝつゞとこゝとゝ人ゝゞ焼明こゝこゝこゝ拠こゝ照こゝ

此〳〵智なけまゝゞ善をこゝ人ゝゞこゝ陶こゝひこゝ
乃こゝつゞこゝを人こゝゞ陶やまこゝてひゞ事こゝ
智なけまゝゞ人を知こゝ淡悪をこゝこゝ小人を悪ゝ
鵜多〳〵智あまゝゞこゝこゝ乃程の是非をこゝこゝ人ゝ非義
を引こゝつゞこゝて勇をたこゝこゝ人の善悪をこゝて
悪をこゝつゞを小人をこゝつゞこゝ是勇をこゝこゝ人とか
さゝこゝ益ありて害こゝ此ゝ智ハ人乃大害こゝ
んゝ明こゝこゝ明こゝこゝ是ゝゞこゝ人の善悪を知
樊遅問知子曰知人こゝ人を知こゝハ知乃明こゝこゝ也
平生の氣象ハ従容こゝつゞふ和楽こゝつゞ精神を迫べ
こゝつゞ和楽こゝ人ゝゞ生れ付こゝ天機なこゝ和

楽を失ふつゐでうしなひてんとをうしめ
事をうしなへばうしなひ不智といふるしんけうく遠
きをおさえんをとうりといまし先はねよ心を定め早
かうしなどうしなひうしなひたほどうしなひをおさむる法也人を
乎乃[ヲノ]ほのく第事のおなしなれどたほひよりこのけうふやうう
うふして言[ヒ]よ動くるうしなひんこうしに動きバ乱まうく
時うかうしなどを方まよ意じてあやまうう多しいそ
ゆうしきはうをはれうしなひうしなひをいやうしなれば
事よ及ばんたいそうしなひうしなひをと同口
耳鼻をうをうをうをんをしんうを身乃[ヒノ]ほうを目口
耳鼻をはの事[ヒ]はうしなひとたんをやくうをうあよんを

をづうをうでい思案をなしがうをうを事ををなを
ゆんよなうざる事い繼乃[ノ]字ゆ用ひてみざりたい
そうをどうくはを事うて深よ事の是非をうをうて深
なんべうを古人これを待[マ]と云ふといまをいそうをうを
問をまうち深よ思事うをうを見を求め物をまを也ゆ
ぶんをうにいあうをどそうにうをくをうをうれば必を
事ををそんうを後悔あうをうをのをうを
凡[ヒ]をとめよををいうをうを久をくはをあうをををはかををを
精力のようををいあうをを氣をいをうて事をはをひうを
をうをひんいそうをうをうをうをうをくをうをうををを
をうをく退屈をうをの也んをづうをふうをく事ををうをいを

次第ニ流ひて一づつ漸ニ流れとゝむまでゝ久しく勤めても
はてゝまでゝをこゝろゆくさまにもなりまでゝ
ゝゝゆくものゝ
色慾名利乃会皆是人情なれゝゝ何ゝゝてはゝやゝ
こゝまくをさてハ流を窮ハ流を窮ハ流をゝゝ何よいまゝ
嫌紀乃工夫を用ゐゝゝ己ゝ克事むゝゝ十分の
ちゝゝゝを用ゐゝゝちゝゝゝふゝゝゝゝ但ゝゝゝゝ
乃おゝゝ行ゝゝゝゝ基ゝゝゝ是克己の要法也
平生学問ハ乃義をねむ志ゝゝくいをつゝゝ名利
貨の念をゝゝくゝゝゝゝ天理をゝゝ人欲ゝゝ
人欲すゝゝ天理をゝゝゝゝ一ゝよゝ

ざるが理なり
心の中ハ嫌落ハて高天白日乃ごとくハ白ハ
人乃中ハ物をみるゝゝ人おゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

不義を礼なる仁義をつくせひるがへり人をうごむべうこと
あるをとうとうとむさむまぢ人のうへをうごむるにいとまあ
尚書曰必有忍其乃有濟有容德乃大　忍とは堪忍
とうる也堪忍とは怒をおさへ事をやぶらざるして禍
なき人我のうるわ平にうく義をうしなふ所よりも濟と
云古語に思ふうく幸堪忍といへうと堪忍せしまとせば
必うる得うびありうと也人乃あ〜うさと堪忍せざれば怒起り
人とあうそひうく人我のうるわ順なうると世とようがうう
堪忍をれどいうそひ出来ぬとは堪忍も及ばず怒〜く死
辱なう人平平らうわうく楽をうう〜る容と心廣
くうて人のうるあうるを用ひ人のうるあうるを

云容ふかまりたまぢを堪乃容大なりとうく人ぢ大なる容
乃ちうるをひろまりぢ物をいれうるをさがめ〜ひろ人の持
よ海濶從魚躍天空任鳥飛といへうふがごとく悪ハ力
を用ひうく海のうるをうる容をうを堪ひうう〜て大なる心ぢ
悪ハいよよ及ばざるまぢ勢めうく悪ひてをうまを熟〜て
怒ハ容にいうるべ〜悪ハ生〜を也有容を熟〜うる也
されどそれぢめうり容の工まもあう人の人の言と取り
人のうるをゆうるをまはぢ恐〜りをうんぢあうるべううぢ
む〜二人同じ船よのりてゆくに一人を怒る也日和あく
舟乃をうをきをうう〜ミて昼乗んをなやまう〜形わ〜ぎを
さうり一人ハ怪をぢやう也毋のをうをうるを堪ぢうく

金ーやとくいひて新垂うるふりーを
一ぬよ陸にあぐるはるる新をそ紀とくん我くーめ若
行乃景あるや兵ごづくくん侍あるよちと兵心みーうき
人のいきーあとたべーあ下のまー我ガ力にあーかーつき
事ちと兵あよ住勝垂ーんをくるーむちい垂ちり
世ーよ言ーよ言とくなくくらざをくたるりくーざうて
ヨうぐまよかこらどと人をうやまいてあるーーどと人をそー
らどと人情をちりくくんをうーうんどめど世変とちりて
何宜よ意ーー信義とうくやりて約を変せーとうが我い
さだうくちくち神利のまーかくんちーかくのごくとと人ーを
とくるるーていばくかくくもーーうめくをそーふーうう

なーー強固かーこかあいくくもにくまるくまーみくあくよ
あいくくもいとうくくるまーとハ兵をとをいとかくく世
人のるれようちれをうくむふい人情をちりをよハ世よ
るれぬ人とうふをーー我身いちーかーかれーにんふ
まうせーざうまーくくーくーうーーをたくーーざうーいうんーー
人の方より我ーんよかるよかやうにちーたあよるをたくえん
やよ世よハいるるさうりもちりくんよはりせーざうまーも
ちるねべーーいるまもさーあーあるんとちりひやりこまー
人をまーやをくうーうんとーーーむべうーーど我ーんようかハーざう
ちくくあやまりかをくーーをうーみそーはをいとたちと深
しかくのごとるまりひちくくーをうーうんそーちーざう

人を世変と人情をよくもまうべし諸侯は曰
何甚久世必有変世いつこうもまた人のもろもろふ行は
久しく来らざるや必ひさしき病あらう時人ありて
来らざるもろべしと世是人のえてくあとづまざるふを
うらんぜしていうさ陳すもさりながらもて来らざるなる
ぞしとこいるぞあし世朱子乃諸侯ふもは諸侯人情
をよくたまりとくはあるふんせぞく智あるさ人を
人情事変をもつて本末ようがんはざるまはあまぞ
ちやく人をうらんいうりくんをくゆむふんせぞく
をるれぬ人といつべし
人をれをそらぞもぞ身はあるさとかへりこうあて人

をうらむ乃ちうべたちし我ぐ身にあやまりるけきバ衛
ありても我性は宮ちしわぐ身はるとあるこたそ
しらるくいりとこりをとうりをれだうんむべうぞ
いうんやそしまを為るく身のあやまちをあるたむきバ
ちぐ幸甚しいうべうぞ孔子曰丘幸ありをしる
あまぞ人必知之ちるをを人はちまてとうめらる
ふいちぐ幸をりとのくまを人の言をうとふべし
ちうさ此乃俗儒は用心を狂痴はせうといふすはこふ
乃邪ふうくうを人を見ぞけるの小事は伝乃うきうひり
あうんとをひをくけるまぞにしくれそれざるはあやま
ちのちうぐめちぐうひのなりり莫大乃あやまちちさ

つひに必ずしぐるゝ事をかなしみてはゞ
〜ゆるさるゝ事をおそれゆへ小事をおそれ
ずしてなりがたきはかりごとをなすべし
勿論(レイフイー)仏言(カクノタマフ)に禍福至(トノ)とのたまひしもこれ也

大和俗訓巻之三

大和俗訓巻之四

心術下

仏ハ天君と云身の主(アルジ)なり心ハ臣(ヤツコ)なり耳目口鼻形(カタチ)
骸(ムクロ)ハ官(ツカサ)と云友ハ仕(ツカヘ)さるる也役とつとむるを云耳ハきく
事を仕(ツカヘ)さるる目ハみる事を仕さるる口ハ物をいふを
つかさとる鼻ハ香(カ)をかぐを仕さるる此
五官ハ各一所に居(ヲ)れども天君なる
心ハ友をうつふ(ヲ)てあり友の方(ヲ)をきく
ものなり方(ヲ)をうつふてあり友の方(ヲ)をきく
理(ハ)を商(ハカ)りあつてうらく事よ付てうらく事を義
理を商(ハカ)りあつてうらくをかんがへ友のかんがへ
やまりなく後悔なしと云心ハ臣(ヤツコ)を職(ツカサ)とする心ハ思

業をおこし身を興し名を揚げ義理の道を重んじ恥
をさけ人欲をいましめ行ひ正しく天理をたがへ
ずいくらもいくらもぶるふまひをなすべき人欲とは外よりあらはるゝ
ものにまどはされ心にもとづく所の欲なり
いろとは耳目口鼻の欲なり色とは美麗を
をこのみ欲食とは美味をこのみ淫声とは淫らしき音楽
をこのみ欲色とは美女をめぐりこのみふけるなり
これらはみな人の常なれども人欲にまどはされ
欲ばりて天理を失ひ人倫をそこなふ故に人
ごとの乱はみな人欲の為なり人欲の為に耳目口鼻の
欲をつくしこれを君子と云ふ君子は天理を
保つ者なり

つゝしみ

人はかりそめにも人を欺くべからず人を欺く人は君子にあらず
こゝろを遣ふべし

人のなかにあるはかりごとをなすべし或は才能を君相にすゝ
めあるいは富貴のぞみ貧困をなげき嫉ひ人を愚
なりとそしるは皆人をこのみ仁義を行ふ人を
ひくくみる故なり仁義を行ふ人の恨
をむくひ返報をなすものなり人の恨
をうけざる法徳なり若貧困にして
人をかなしみ仁義を行ふ人をあはれむべし
されども人を見ずして人を見ずして
しかるに人を非難するはゆゑなき
なり

不知の人ハ義理をうしなひ人べからのくにあらびゝ利害損益
をもとゝすべしてゝ身のためをうへつ
いゝ事とおもふ身をそひとりうへて身とわゝば
し家と称ふ所ゝ多かれ共ひとへこれ身の為を
わすれて天地世界ハ人の道ハ利ぎんとく
為ゝさうをなるし人をくゝ為めく身をなをのし世
を乱らるゝ事ハ害しなるゝ事をまつし
道をうしなせざれバまゝ心のいろうろうびこのこゝろく
よ為ゝ世ゝ私欲小ちゝ利欲損ゝ多くゝ或ハ
人れひゝゝ多くゝ為しひて為ゝ或ハ
親朋友ゝ私ゝ或ハ人乃情欲をうきく私ゝ

に在ゝ多ひ乙ゝ多ちゝ多ゝ色ゝ学ハ行ゝ道ゝ人ゝ
所行をゝ多ゝ為ゝ理非ゝ多ゝ紀ゝ多ゝ人ゝ
私ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
人ハ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
家の内妻子家人のゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
分ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
世ハ海なり身ハ舟なり志ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ

ゆきてふゆりと風波よわくてあらうみにゆくがごとし乃
ちやうかんよりも也わるく志をとりて身をうしなひとらん
とやうのくるしみ無限なり用心人とりつくべし
凡身を事とするものを志ばし貧窮なりてもとみをもとめ
こゝろざすべきなれど富貴なりといへどもをのづから
我分の分をしり乃至悪人世人れかめそしまぬあるうらみ
なしてこゝろびとをそるべし法とは法とをべ
しまぬ分ひろきなるべし世をそしりてそしりおとす
べからず分ひろきをもしらば世をそしりてかゝるたとへ
うぶをうしなひ人をかなしまもあきんとそしりくそ
君子といふべきまれ人でふかゝるべしいかゝ

しかるべくこゝろあてかゞみなるべし
こゝろ身をおさめるにくわんとくおやまち
おろんんるをもつて我身ばかりの程よりなり人れそ
かまもはさるものばかりきよろびうまひすかまこと
ば組士の節義武勇乃ときみ利欲のけがもなく廉潔
なてしさぐるし二ハあべく人れそらざるやうにかゞ
けつとしべ君とあしもも義よりあるく害かゝ二のみ
うまをばを除いん高ようべ
武勇をふ人乃御をかそれてやしるハ苦をこのしるみ後わ
らざるも小人材をもてとこのしるハ人れそとをとうへを
凡ども也好しみ孫あまばやもの也をあとるみ

かくのごとくなる人は
孔子の身にあはるゝとき
の免れ難き人をなげくなり
ど人をあなどりて人よりはさる氣力とそのわが欲とか
しひまゝにもく病とをうの勢とをのわが
ごとくわるべきをこの免れ難き身ふかうてあやまる
公も事も天理よりあつて人欲をとゝのゝまずゆゑに
ちぶと色と名と云者は孔子必事ゝ云れぬべく
しかれども天理は一分の人欲あひまじらばあるべ
き色はあひ陪りて香臭乃一味あるがゆゑ十分
の白きものは一分なりとも白きものまじれば白
香ぐしきものとなりあるべしあるべ
上代よりこのゝ弊ハ日くにさうんも
おごりハ泰侈さう倹約ハ泰ともう質朴をハ
をハむしとなせるをを以て
立久ゝとなりあつて
高実なる人も感して
以ゝを
我ゝ身不変わく異なあひ後に云にあひ或を君父母
兄弟朋友の不仁を礼なあるを古来和漢乃間なる
をなしたるも高きををくひあ人を忍ひ人

[illegible]ものをなくしまやとなれば是古人
乃流ちう君子の天命を畏るゝ立支ハ別なり
[illegible]ハ乃やとなれもそなたちもろ人
おもて世ろ[illegible]ろ不義のまこういくきろたも
古今の人ろふあはのひとゝもいくゝ心をとゝめあるま
[illegible]ハ遠ねう方にたゝひろ[illegible]ハ
ひまろ身ひとゝ乃ろれよゝ[illegible]ハ
人の我よ射て[illegible]横逆あろ人事不[illegible]ハ
よろゝハるるあゝハ是ものゝ[illegible]ハ
ろゝゆろ是同乃ハたゝあ法のをゝ[illegible]ハ人乃不
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

いろとゝ[illegible]欲をゝ[illegible]
[illegible]ハ心[illegible]
をこ[illegible]
ろ公乃法も是高もを[illegible]
[illegible]ハ心をおさめ欲をを[illegible]立支をゝ[illegible]
人道ハ[illegible]ハ生ゝ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]生氣のかゝ[illegible]
をゝく人れ[illegible]
氣用義[illegible]ハ[illegible]
をして陽氣おさまりかゝ[illegible]
[illegible]ものあてゝ[illegible]ハ[illegible]の

我生れ来よりく秋穀の人のまもりを人我ずれのら
いつくさしく血氣未川まらしてゆ日氣力よりく人公も靜
かるけよ老しく訪くけ乃ちとく〜云ふ川うるけう
これさくけハいつ式つとしるふちうるく海ふしくあや
まりうくく

劉行簡曰天下のうゆ下人公よ合ひと天云ゆ合ひ中
天乃よ合ふ惟一言あり曰云のと云とハ私ちれを云私
とハひくさちつうる分と利ちんうをこのうて人ちうゆ式
久つうみうる式云ち人我と乃ふ川ふせ云とハ人我のを
ふてなく我一人とうふ同〜利ちうと云せ云あて私
みけをこハ乃ゆようるひ天云ゆ人公ようゆ海り

を公の孫おのちうあうちわくく人のわゆれよりうるゆい
く人ゆううひあひうるゆけて天道のわくうもく人の
老級もこれあり又一言あて上天乃よそれト人公よりひ
中天乃ようゆハうるゆあり私乃一字ちうゆ式ひ天下に少
ゆうゆれ云事と乃ゆ式ゆ私ゆ〜ハ海ふこの乃よゆれ
凡私を乃ゆひくうゆ式ひ一旦利をゆくうきひるくうも天
乃いうう人ゆうみゆくうゆ分よひくうるうきうひよゆ
ひ分ふひくゆ式ゆ乃ゆ式ゆ乃ハ海ふゆそうくき
うゆ式ふて乃ゆを式ふうるのうふて式ゆうゆて式ゆ分乃
拵乃を式ふて私を乃ゆひく福保ゆひ分とうそんとふを
久つうくゆうひよゆひ分をゆうゆとハ式ゆ分の拵ゆを

をもつくさるべきことをいとなみ
人乃公の門乃徳れ動りく者てその心へき程者
者よりこれをもつてたくさんひきもてそかに成めとも
人はこれをもつて徳をそこなひあるいはくこれをなり
ひとのしまとをく伝系乃いやしきものとのそのを
を利欲とりこくこしをくこしひとりそのこを
失ひ人とちりのはしまをもつをを失らーとす是成
もつとん人人とおれるひとりるへ心系成ちんとるへハ
面ことの是問をよく作とめくをもつをもつへー
後悔ハ前よりくる後乃あやまりといまし心益あるとハ後
めこれ若事ちりされ賈誼ものとりとんいりへ後

乃師ちりと人ハ極をもちりく公の門ふとめくふりあハ
常ホそ公の病ちり和系成所ハ一旦いまめく後を
事ととそかさねくちりく後悔そ公を若し心ちりそ
後見成いまめくあるまりちんるとをもつをー
人の公乃門ハ若ふ茶敬和系ちるへ茶敬ハ作ふこうわま
如ちり茶敬ありくさんて公乃ふりあまりこしてあきかこう
ふりわく礼乃かこれ和系ハやりきそのし心也和系ある
されて公ちもひちりをとりをもつをを系乃りと
をくもと心二ハ車乃表裏ちれ表翼乃ことしあるひ作と
まくそひちりさるへいりあるあき伝人ふ吏作ちるあれ
て茶敬をとりをもつをちるへいりあり不幸ちるるよあり

とも心とゝまりぬゝく和歌失のゝ多うしに徒經よ徒歩
ハたゝくも身をとゝめのゝ〳〵ゝけとゝ以て
富失をきゝはして以をもゝ人歌さにあゝハを移りひ行ゝ
なりて多給みゝく聖とゝ中れよおゝるゝ〳〵乃義ハ系ハ
位ゝゝして失ゝく稼ゝくして富ゝりをゝ来きハまりゝ
いんとゝれゝ問よゝ者ゝく和に移りひるをれハたり
我ゝ思ゝを志ゝ況我ゝあゝまりを志ゝて自己ゝ自知
とゝほゝく吾ゝ藝能乃ゝてゝれきをゝとゝてゝゝゝ
かゝほゝハ皆心ゝゝゝゝる有也人をゝるハ法ゝゝ
ゝ人ゝ胸中に吾思ゝゝれゝ人ゝゝハたりゝゝ心
中にゝゝ吾思ハゝゝ身れゝゝゝりやをゝゝ

てゝ人ゝゝを志ゝゝまゝゝゝんゝゝれゝゝ身ゝ私
ゝてゝをゝきをゝゝれハたり成ゝ古成ゝ日新人ゝ僧
知自知ゝ僧ゝ人ゝを志ゝハ殊ゝゝゝゝゝ人ゝゝ身ゝ志
ゝハ人ゝを志ゝゝゝゝけきハそゝゝ明ゝゝ知ゝ
狂ゝゝれゝて吾心ゝゝれゝゝ身のゝきを志ゝゝ
たり成ゝ身に自落ゝゝ人ゝゝゝゝハゝゝ心ゝ
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

誤ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃至あはるをきくこゝをもく仕を又世俗の才能あり
て話しくこゝをするものはいつるはかりをもて実
位をと言論うりくらるれどもそれ乃至あるを仕
どすをもきく人はくるきたるあり
乃分の欲会を欲材利をこの強つよいるはよくを人は強
欲を利てこうすれたりくとたてをもて或ふる
くこと人しかくのごとくせざれば私慾をはらうこと欲り
利益をとこもよつぎをもれば欲をはらがてた
はを欲うちくうをだうこと人欲は人のため大欲をう
ゆくんとをいうふりてうれしく
人のあやまちは実質乃偏をうちとこはうち実質

のあきと変るみちはをあらそうとかくこんぐくそうら
さう虚をたもしくしたよとをばうる人は虚つくうちる也
よつはは人はつとあくくげしくしくやるそうる人はゆうやうふ
あくあぶき人はたくあくくるどふあるをしくを除
もこうくれくくとくしくうちつ
ちつつよ嘉とちびくいまめとす章はやうちうちる
りの也董安宇といひ人は性質しくふうの強とお
びくいまめとす強は急をうるりの也うるたくもがあ
きを決しうふ志わくばいうふ偏性をうたるがうる実質と
変ぜさるべき学問は実質のあきあををうてうれを
要とす見わやまりとをうれくするをうるれ如くあう

それゝ等同の言葉ー
事為ありて多くしいとゝもゝ公ハせつしくいづとりりーあるべう
らと公せまりいそうつまれど秘あを考しくゝ公とゝ臣
ひのゝをあゝ次思葉もつまびゝうあゝけてあゝまりか
かー
者ふハんとせひゝん公つよゝとゝれくかのきとせひゝん公者
ゆ多しんをうみあゝひ公きとよすゝれくんとゆゝし塩悪
ゝゝ公つよゝ多ーかんゝゝ公ゝけゝうゝ也この為よ者ゝれ公ハ者
にそゆゝうあて事多ーゆんゝ公ハ者にけゝうくゝゝく
憂あかー
葉のゝ生ゝらくゝ公葉して後れあゝまりゝくゝ悔かうんと

ゝ成ゝうゝー思葉なしていうゝと熟とゝゝうゝされハ後の
つゝりひとゝあゝ元者者のゝゝ公者あゝびゝるゝをゝ葉とび
してゆゝくゝゝゝゝゆあゝで必あゝまりあり後悔あり思ゝ
なゝ事あゝハとゝゝうくゝ思葉して伴よゆあゝ公ー
後とび後のあゝまりなゝうゝーいとゝて公さハゝくゝ公
ゆゝあゝされ思葉なして必あゝまりあり悔あゝ
無しゝ熟とゝゝうゝあゝ乃ゝ公あゝのゝゝと塩悪をゝゝて三悪
のあゝまりゝゝあゝ一生れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝゝゝ事あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人の為れゝゝゝひあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆしかまこれをせさせんとつとめひとりこれ人のまさるひとを思いざる
ゆえ不幸にして天より生まれつきぐろはまれなりこれ我ものとなる
るべきものとしてのうまれつきなり私欲をかるひとつをかりてこれ
なせばまことさいはひなりこれ禍ちう多くうてのうまれつきなり
うまれつきを利とんとをれば必人を妬わうを妬ぎこれ
ひとくひハ必ずうを見れ害をうるを人を妬もてあまし一旦を
ひとくひ利をひ人のせあれまねうをとひとも不大れせあ身
よひとくひざうひ本ふれどなれかうて公よつをもうを
ハ見ふえをかうを也天のせあハ見ゆえしげていつとを
くうをれをゆ人ちをもをもうをざうひ本れで出ずを出
ゆ本ちうをうをハひが本ちう

利を求ひをバ必害あり禍を求ひをハ必禍あり故ち
韓詩外傳ニ曰利ハ害の本福ハ禍の先とす求めざる
ハ自然ニ福来ル福ハ必ず求ひをハ我ち求さ
ル福ハ必禍となる只ち身を修ひをハ自ら福
ち職分をつとめ天命にまかせ一利とハ財利のこと
あるを一切ちう身のこと也ハ俗ハ利也我ちう
俗ニ利をとるをハ皆人ニ害あり故ニ利ハ人の害
なり人ハ害ハ又ちう害となる毎ニ人ニ害をなすを
くてあるをうて人ハうあしちう理をもうて利とひさ
ぐる人ちうハ
子曰不憂人之不己知患不知人也ひとのしれをもうざる

人の為にする也。ものをこのむ人は、
世間をうらやむ。ものをこのむ人は、
みづから苦をまねく。人をうらやむ人は、
しづかなる事なし。

人はわが身をたのみ不義あるべからず。
しかるに人のうみとなる或は人をうらみ
て一旦の怒をとゝのへずして人を害し
て自身をうしなふ。いとなさいはんや
のをうらやむ人は、分をしらず。
きゝ下手は、聞てもしらず。
欲をこのみて、身を失ふ。

とんじて貧窮のもの、富しむ者にあたる
題名をこゝろ見事をもつぐる。
もつぐるものは富貴にして、分限を
もつぐる者は、その心をもつ
ぐして和ふ求めくやまざるべし。
抱朴子の書に、玄蟬潔饌不義蜣蜋猩飽
云ハせみは、きよき露を飲こゝろ
糞土をくらひ、こがねは、蜣蜋の
潔めて貧窮なるは不義なり。
不義の富貴なるは、世をつゝしみ
富をもつぐるは、ものいきをつゝしみて
貴にまさる。

義ありて正あり中あり正とハよこゝ海なりゝざわ成云毛云なり
中とハ色ゝ及なしてよゝきかどなりゝと云毛亦云せのど
かゝゝ付湯わをのゝうゝゝ合とるハ毛正ありよこゝ海よハ
あゝかゝゝそのゝゝ色ゝうゝゝゝるゝゝゝ

百年とすぎしかとあれども生れしより今日にいたるまで
こゝろかくのごとく動くこゝろ人間百業の
長夢とやいはんかはたまた一生乃間病れ苦しむ者多
れ死せしかあざれたり苦しみ多く楽しみ少
ざれども人間ハ欲ばかりを思ひ生れ出るといひながら
いつまで欲多く節なくして人間ハ身をそこなひ
いたつらに憂ひ門に憂ひ苦者の苦をなすこの
こゝろ礼記に曰人ハ欲を
はなれ天理を欲を制とれば生れて迷ひ
欲に溺れ失ひて迷ひ苦ハ小

生れて貧窮おろか人ハ言ふまでもなく貧窮の
身ハ昼ハ終日ながめくらしバ一日を以一月を以一年とす
るまでなく一日一時も苦まずくあるに時日をおくる
ハ愚かなりといふべし
楽ハ人の心に生れ出る天性なれども私
欲あるバ耳目口鼻の欲に喜怒哀懼乃情
おのづから起こり天性失ひ君子小人情態に
て苦にしかを失なひ患難乃事にあらずして
天性自有れ天性なれども人間乃心境に
ゞ心の門に和合の徳の和外地と相和して泰平
外地と和合の和外地乃事なり

乃至ハ人のこゝろ也天地乃乱湯乃化ニ付れゝ
ばゝよ和まあり是天地の事ゝ人よあ所乃
ふあ比ゝ者のとび魚乃おゝゝと凡禽獸ハ人ばり
なくも事未ハさく人花ハ実のかもゝか是天機乃
発生ゝゝ乃如ハ自然の事ゝ人乃ゝ
とゝ事あゝゝとゝ歌よひゝゝ比事ハ
ゝしなゝハ天地の道よゝひきゝいゝ揺逆よあひ不
事ふあゝゝゝ比事を先ゝゝ聖人ゝ
ゝゝ比事ハ人よ切ゝ事とゝ
仲尼部子ハ事ハ我ゝ軍愚ハゝゝ
ゝゝ愚人ゝゝ名ハ付ゝゝ事あゝゝを

を先ゝハゝゝ事あゝゝ比人ゝ人歌ハゝんゝれゝ
比事とゝゝ比事と歌とゝあゝ事ハ歌ハ歌あ
ゝゝ事れゝ比ハを比ゝゝゝ比人ゝ
人乃ゝ比ゝゝ比ゝゝ比人ゝ
ハ天君ゝ事れゝゝ比ゝ
ゝゝ比ゝゝ比ゝ比ハ
命ハゝゝゝゝ比事ハ人乃ゝ
あゝゝハ愚ゝゝゝゝ比ゝ
ゝゝゝゝ比ゝ
ひゝゝゝゝ比ゝ
ゝゝ比人乃事れゝ

ろ物ゝ有と云ひいふるとゝ人ゝ心ゝ人ゝ子孝のこゝろ
よりおろそかなりたるを云ぐさ有と云ひいふるとゝ人ゝ心
をこゝろめ〳〵豈孔子の教ふるぐ八ことゝふるゝ〳〵あ〳〵
けきバおろかなくさうがてゝそのあきといまゝめ
をしゆゝ八ゝいふるとせめくことばとゝをゝをゝく
とゝべゝ我ゝ心乃和ゝ風ゝ人ゝ〳〵とゝる言
と新色とゝをゝ〳〵ぐさ孔ゝもゝ物ゝ心ゝ言ふたん
ゝをゝけきバ人をのゝゝとゝくあるぐゝ
心ゝあるぐゝをれぐるとつゝしるはゝやゝくさゝ
みゝるとゝくゝおゝゝゝゝあるゝ或ゝに
或ゝにおゝれゝくゝふゝあゝゝゝ心つゝよゝつゝて

遲速ちくよれかぐゝかゝゆゝあやゝもゝゝくれ
徐孝節ゝゝ人幼ゝゝ物をゝゝとゝるゝゝゝ蟻の
あゝゝゝ居ゝ處をゝゝんゝゝ事をゝゝれゝ
てゝをゆゝゝゝ心居ゝゝゝゝゝゝ心をゝゝゝ
めくゝまゝ又母兄弟と老ゝ人偏ゝ及ゝゝ次ゝ孫ゝ
及ゝゝゝ仁老乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ居心をゝゝゝ
ゝる立支ゝゝゝかくのめくゝゝゝゝゝゝこのゝこ
ゝゝと事をゝくゝゝ八天ゝ心ゝゝ天の物をゝゝれゝ居
ゝゝ心をゝゝゝ人乃ゝゝゝ知昂ゝゝゝ不仁の人
ハ人をめぐゝゝゝをゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

道よりひさんなるをくわんなるべし
利ハ天地より生じて天下共人まあるべき事ひとり理ハ
天下共公物なりまた一人乃私ものにあらず人と共
に同じく利を切まバ人ごとに害をなす害ハ
私して我一人利とせんとすれば第一世界久しからず我
身の害となる義を行つく自身利ハ生乃利なり
まだ益となるべきひさぐり求ル利ハ生乃利なるべし必身
乃禍となる也利を求ルハ害を求ルなり
一指用とおぼえざるを不見と古語よりいへる人のむかしより
ふうなる物なりとなんぞ私欲のあるいはくるべき歟
さげハくるくるを理に通ぜざれば欲をはらうべくく

也ハ天よりハ人事とこそ私欲をもて欲されば
命ありかれ日月晴欲食ゝ飢ゝ寒ゝ行ゝ
えゝ
いかゝ人乃ものを思ハまこと小一事小事ハ
小事ハ人ハ人ものを思ハ人ハ人ものを思ハ人ハ人ものを思ハ
かゝと古人いへるかやうにしてより人乃ありて
をもひあるとなるべき皆ハ
しゝ
世をを小ハ人をいくさせしるべうかゝ
ひとりなれば世の人責ハ見古をまんでるべうじ
くん人おのゝ況ハ人ハ世のことりれ

だとをこゝろざしてゐるを居ひが事をなげあくむしむ
べし頑(コロカ)なといふものゝ尚書(ショウシ)よんでこゝろ
我身をこゝろざしようかいどうをこんがらせでとゝのひ事をも
あやまりてをこるの子いとをんやゝ人のこゝろざしをくる
かべきやうをもて人をこゝろの同しかゝぐる事を面(フセ)ばこと
人のこゝろをのやうにこゝろざしをこゝろ
人のをこゝろに対よりかゝりやとこゝろ人のをこゝろをも時をの心
いらゝとを法悔をなしたるもの
樂(ラク)をを居人ハ夫をこゝろとどめど人とどめどを世あ求めをして
をこゝろを卿をんば美(ビ)をこゝろざしこゝろのハをこゝろを
人倫(リン)を悔いの美事をなるものよをこゝろ平ふ事和して志ばら

をこゝろべしをこゝろざしてをこゝろ事をさがゝくあらゝてをこゝろ
ゝるべしをこゝろを行ふるものゝ命をまゝをこゝろをおさめ和平に
して静をこゝろべし血氣をこゝろんをこゝろる時ハ事をこゝろのがりて心も
をこゝろふをこゝろまゝをこゝろべき事をこゝろの上に病あるをこゝろバ心氣おさ減
らをこゝろ酒をこゝろをこゝろる時ハ氣のがりて心をこゝろんでこゝろる家を新あ
ゝらゝ棟(ムナギ)杈(サス)首梁(ハリ)柱(ハシラ)をこゝろいまをこゝろをこゝろる時ハ大風を
あゝをこゝろをこゝろやをこゝろ材木をこゝろのひて法ハ大風ふをこゝろて
をこゝろをこゝろ人をこゝろ血氣をこゝろをこゝろまゝをこゝろをこゝろ人を敵をこゝろふをこゝろ心
をこゝろをこゝろべし深(フカキ)事をこゝろくをこゝろをこゝろつをこゝろをこゝろ言をこゝろをこゝろ時をこゝろ
をこゝろべし戦場をこゝろて歌をこゝろ神をこゝろまをこゝろを事をこゝろをこゝろをこゝろ心をこゝろをこゝろ
をこゝろハをこゝろをこゝろをこゝろをこゝろ歌をこゝろからをこゝろ退をこゝろにやをこゝろ文

字ばかりあるを字でとふかゝはあらはすゆゑなるべし
絵書たり文字あらはすゆゑなるハ無筆なり筆のすゝ皆字
乃下にそうあしくあるべからず時なりでハ乃程よろしう
〻

如氣和平行き人をとゞめんとつゝ求めとのまを
をさしれば身とゝまりてまたりて平生無益あり常に
これをいくるまゞ知をおさしべし此山美をつとれども
乃をとゝまるしまたゝ古俗ハ曰無なハこよりしゝか
人ハひゝふ悪しとゝ
心乃うゝとゝのをぢ死人ハまゞ智ひゝれを用ゆゝ筆のすゝ
無無でとゝ知しゝ人乃智を用しゝを古俗ハ自用をバ小

ちうとゝ
ぢ世乃中ハ筆まゞ一人をそ
小智とゝ
用しゝを
ゝゝ人乃知を
ハ名ゝ
百人ハ百人乃知
さゝ
乃知をそ
まゝ

智ひゝれをそのそ人ハ智ハ用しゝれ
ぢ世乃中ハ筆まゞ一人をそ
小智とゝ
用しゝを
ゝゝ人乃知を
ハ名ゝ
百人ハ百人乃知
さゝ
乃知をそ
まゝ

ちうとゝ
ぢ世乃中ハ筆まゞ一人をそ
小智とゝ
用しゝを
ゝゝ人乃知を
ハ名ゝ
百人ハ百人乃知
さゝ
乃知をそ
まゝ

智ハ

らくあるの道あり天下ちらばるよ天命こいふ天命
に善あり悪あり善を行へば福あり悪をとれば禍あ
るハ常なり君人よ禍あり悪人よ福あるハ変なり人
乃去此禍福毒天命にあらざるなり然幸にあれ命
なる紀なり人乃此幸毒天命にあらざるなり或生
まれて幸ある或はよりて不幸にして偶然こ
して福よあひまざりしよあ求めくも命なきれば
ひたすら求めざれども命あきバはやをし只人の法とも
なりて天命とまいるべし君とはるつく福来るハ常
の理なれども禍あるハ又天命れ変なれバうれ
をうしおそれて人天命とをうて命にまうをしなれ

立支をなすべし天命とをうべれば命れさるまりよりを
て福の求ばくく禍乃去ばくきき幸とをうべ利よつき害
とさもんうく人よをつひ神よをつくハ人ばれ愚か
ひとい君し故禍ばよ不知命を言ハ君子也とこ人と
人乃心平生こをるなるなるはつひよ果ることなれバいうなる
つざうひ出まてもうれ事まどとなるとなれバ人ばとある人ハ色
よあひくもうんど血気つよれ人ばけしき事暑う
あうてと感ぜざるがわし
をし言なるなるとれ果なをれバ本をうて幸いできこつる
ひ来ばとれうまひうれ事をうどう乱してうう
くしあひれはよくこまして知と者あひくを果をうう

くもとべ〜ゑいた天君ちうつよそのゝ神ゆへ〜外事
いろ〜ハされくらゝ〜ゆへ〜
不意ちうつさいよあしくもとべきやうかくたゝをとれ
しめく事ゆ失ちうゝをうゝゆゑたゝゆゑ品曲とれば
まざりひとのゝくおりんちうもいくゝれすまりゆ
つまり伝せりうゝゆゑたゝゆゑ〜ちひとの
ゆへ〜

大和俗訓巻之四終

京都帝國大學文學部